

令和2年度 第2回市立須坂図書館協議会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和2年11月4日(水)午後2時～3時30分
- 2 開催場所 市立須坂図書館 第2講習室(西館2階)
- 3 出席委員 長坂委員長、目黒副委員長、西原委員、竹前委員、富沢委員
- 4 欠席委員 本多委員、島田委員
- 5 事務局 田中文化スポーツ課長、文平図書館長、北澤管理係長
- 6 配布資料 令和2年度図書館事業について、扁額について
- 7 会議状況 各事項について事務局説明後、質疑（◇は委員の発言、◆は事務局の発言）

(1) 令和2年度図書館事業報告(上半期)及び事業計画(下半期)について

◇「信州須坂図書館まつり」の中で行う「ほのぼの川柳ほくしん流」の募集について、内容を聞きたい。

◆「ほのぼの川柳ほくしん流」は、平成27年(2015年)11月のトイレ改修工事完了後、その壁面を活用した川柳が須坂新聞社の目に留まり、発展した事業。毎年、図書館まつりの期間中に、年間最優秀賞を投票で決めていたが、今年は、「コロナに負けるな」というお題で川柳を募集し、館内に随時展示発表することにした。委員の皆さんにもぜひ投句してほしい。

◇学校では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、これまでとは違うやり方を工夫してきている。収束後は、ビフォーコロナに戻すものもあるが、新しいやり方でやっていきたいものもある。今年の「ブックリサイクル市」のやり方についても、事前に参加者を募集したり、入場時間を抽選した結果が好評だったならば、今後も、新しいやり方でやれば良いと思う。

◇今年は夏休みが短かったので、須高読書感想文コンクールは中止したが、自主的に感想文を書いて提出した児童生徒が60人もいたことは良かったと思う。個人的には、読書感想文を書くことが目的ではなく、本を読んで感動した児童生徒が感想を書くことが良いと考えている。

◇来年度から児童全員に1台ずつタブレット端末が貸与されることになれば、読書感想文コンクールの入選作品集の冊子もかたちを変えても良いのではないかと思う。

◇上田地域の図書館ネットワーク(エコール)のように、須坂市の学校と図書館が全部つながれば良いと思う。自分の学校に希望の本がなかった児童生徒が、須坂図書館の本を検索・予約して借りられるよう、貸与されるタブレット端末のトップ画面に、図書館のホームページや文化財など、須坂に関する検索ができるページのショートカットをはるよう、文化スポーツ課長からも学校教育課に働きかけてほしい。

◆図書館と学校図書館とのオンライン化が以前から課題になっている。タブレット端末のトップ画面に図書館や文化財などのページへのショートカットを入れることについては、学校教育課と話していきたい。

◇タブレット端末は、小学1年生から6年間、同じものが貸与される予定。紙の教科書と違って、アプリを入れ換えれば常に最新の情報になる。社会科見学に持参して、施設に付けたQRコードにタブレット端末をかざせば、その施設の説明文や映像、観光情報などを流れるようにすることもできる。読み聞かせのQRコード付きの本も出てくるかもしれない。そういうこともふまえて、須坂市全体で考えてほしい。

◇タブレット端末から須坂図書館の本の予約ができて、図書館から遠い児童生徒はすぐに借りに来られない。学校や自宅の近くの地域公民館などで本を受け取ったり返却できるようにしたら良いのではないか。

◆PTA文庫の活動があった頃は本を運ぶ車が動いていた。今は、市の施設を巡回するメール便の車は走っているが、運べるのは書類のみで本は運べない。児童生徒は学校帰りに寄り道をしてはいけないルールになっていて、地域公民館からも遠い児童がいる。今後、できることを考えていきたい。

(2) 令和3年度の予算要求に向けて

◇Wi-Fiの導入を考えてほしい。館内にある簡易検索機は、一文字ずつ入力するのが面倒で、反応が鈍いときもあり、書名などをちょっとでも間違えて覚えていると、本を全然見つけられない。一方、自分のスマホやタブレットを使って図書館のホームページの検索エンジンにアクセスすれば、キーワード検索もできる。うる覚えでも、グーグルなどで検索すれば本のタイトルが判明する。だから、ふだんは、自宅で検索して本の所蔵の有無などを調べてから来館している。図書館にWi-Fiが整備されれば、自分のスマホやタブレットですぐに調べられるので、ぜひ導入してほしい。館内で自分のタブレットを使って学習もしたい。

◆Wi-Fi化は予算要望していきたい。簡易検索機は、図書館に所蔵している本を調べるもの。パソコンに慣れていない方や文字入力のほうが良いという方もいるので、反応が鈍いことや一文字違うと探し出せないことなどはシステムの納入業者に伝える。

◇図書館のホームページの検索エンジンと館内の簡易検索機は違うと思うが、検索エンジンで検索すると、地域公民館にある本も検索できるのか。

◆できる。

◇館内の簡易検索機を使うと、借りたい本のある場所が表示されるが、自分では見つけられなくてすぐに職員に聞いてしまい、迷惑をかけている気がする。

◆わからないときは遠慮なく聞いてほしい。職員に聞けば、探している本だけでなく、たくさんのデータの中から類似した内容の本を紹介することもできる。

◆フリーWi-Fiは、電波が漏れて建物の外でも使えることが多い。通信料が無料なので、子どもがたむろしてゲームをしたりしないよう、気をつけてほしい。セキュリティやネットの怖さ、図書館の情報漏洩の可能性など、運用前に慎重に考えておかなければいけないと思う。

◇カウンターの上に飾ってあった「須坂図書館」という扁額が図書館にとって重要なものであることがわかった。経年劣化による損傷を修理するとしたら、費用はどれぐらいかかるのか。

◆縦95cm、横350cmもある巨大な扁額なので、価格も規格外になると思われる。

◇絵本『わたしのとくべつな場所』や映画「パブリック図書館の奇跡」を見ても、図書館は、災害時に限らず、何かの時に駆け込める避難所と考えられる。図書館の役割として大事なものがあると思うので、もう少し遅い時間までやってほしいとも思う。

◆その映画の舞台となったアメリカには公民館がなく、図書館が公民館の役割も担っているなので、日本とは少し事情が違うが、何かあったら寄れる場所として、親しみやすい図書館でいたい。